

連携が生み出す確かな救命力 令和7年度救急救命技術研修会

はじめに

大阪市消防局では、日々変化する救急現場に的確かつ迅速に対応するため、毎年「救急救命技術研修会（通称・*ELSTEC）」を実施しています。

本研修会は、救急活動の知識・技術を実践形式で鍛え上げ、隊員一人ひとりの現場力を高めるとともに、救急隊と消防隊との連携力をさらに強化することを目的としています。

今年度は、令和7年7月1日・2日の2日間、大阪市消防局高度専門教育訓練センターで開催され、市内25消防署の救急隊と消防隊が参加し、日頃の訓練の成果を発表するとともに、医師と指導救命士による講評及び審査が行われました。

ここでは、真摯に訓練に取り組んだ隊員たちの様子をお伝えとともに、優秀隊として評価を受けた2連携隊を紹介します。

実践的な訓練想定

今回の訓練想定は、銭湯の浴槽内で溺水による心肺停止の傷病者が発生したというもの。傷病者が救出された脱衣所には、長椅子や丸椅子があつたという設定で、より現場に即した対応が求められました。

先着の消防隊がまず現場に到着し、傷病者の安全確認、心肺停止の判断、AEDによる電気ショックの実施、平行して無線による情報共有までを迅速に展開しました。後着の救急隊は、消防隊と連携し、気管挿管や静脈路確保、アドレナリン投与といった一連の高度な処置を適切に実施し、「自動式心マッサージ器」を装着し、絶え間ない質の高いCPRを継続しました。

こうした一連の活動の中で特に重視されたのは、「現場全体を通じた判断力」「処置の確実性」そして「隊員同士の連携と情報伝達の正確さ」です。

本番的にした訓練 一三位一体の評価と学びー

各隊の活動は、救急医療に精通する医師6名と指導救命士により厳正に評価されました。審査基準には、観察・判断・処置はもちろんのこと、清



記念トロフィーを受け取る
救急隊長 荒巻 潤

隊員一人ひとりが自らの役割を的確に把握し、無駄のない動きを徹底することで、統率の取れた活動を展開しました。救急隊による特定行為も確実かつ迅速に実施され、処置の優先順位においても優れた判断が見られました。傷病者が心拍再開に至るまで、初動から一貫して常に迅速な活動が行われたことが評価され、最優秀連携隊に輝きました。

消防隊と救急隊の連携が極めて良好で、現場全体で統一感のある活動が展開されました。隊員同士の声かけや情報共有も的確で、常に意思疎通の取れたチーム活動が印象的でした。また、傷病者に対する配慮や関係者への接遇面も丁寧に行われており、総合的な完成度の高さが評価されました、優秀連携隊に輝きました。

本研修会は、日頃の訓練の成果を発揮する場であるとともに、「現場で求められる救命力とは何か」を見つめ直す貴重な機会でもあります。現場は常に変化し予測不能な状況に満ちています。市民の命を守るために、私たちは何をすべきかを常に問いかねなければなりません。

この研修会を通じて、自分たちの活動を振り返り、次の現場でどう活かすかを考えるきっかけとしてほしいと考えています。処置の手順だけでなく、隊員同士の連携、観察の一言、関係者への声掛けの一つひとつにも重要な意味があります。この場で得られた学びと気づきが、所属全体に広がり、今後の救急活動のさらなる向上につながることを期待しています。

優秀連携隊 東成消防署

救急隊	消防隊
小隊長 荒巻潤	小隊長 和田祐樹
機関員 川村剛生	機関員 津村圭祐
隊員 三浦達也	隊員 池野慧大
隊員 溝渕幹大	

優秀連携隊 住之江消防署

救急隊	消防隊
小隊長 伊藤広輝	小隊長 大西幸美
機関員 永吉稜	機関員 竹定和希
隊員 井藤源康	隊員 飯田海
隊員 石水健人	



住之江消防署の隊員の皆さん



東成消防署の隊員の皆さん



先着消防隊による初期対応



自動式心マッサージ器を用いた搬出



消防隊と救急隊の連携活動

操作や接遇に至るまで多岐にわたる項目が設定され、実際の救急活動を想定した多角的な視点から評価が行われました。

また、訓練後には、活動映像を用いた参加隊自身による振り返りと、所属署での教育を目的とした活動検討も実施されました。単に点数を競うのではなく、訓練を通して得た「気づき」や「改善点」を次の現場につなげるという目的意識が、ELSTECならではの特色です。

訓練後には、活動映像を用いた参加隊自身による振り返りと、所属署での教育を目的とした活動検討も実施されました。単に点数を競うのではなく、訓練を通して得た「気づき」や「改善点」を次の現場につなげるという目的意識が、ELSTECならではの特色です。

優秀連携隊 住之江消防署

救急隊	消防隊
小隊長 荒巻潤	小隊長 和田祐樹
機関員 川村剛生	機関員 津村圭祐
隊員 三浦達也	隊員 池野慧大
隊員 溝渕幹大	

優秀連携隊 東成消防署

救急隊	消防隊
小隊長 伊藤広輝	小隊長 大西幸美
機関員 永吉稜	機関員 竹定和希
隊員 井藤源康	隊員 飯田海
隊員 石水健人	

おわりに

本研修会は、日頃の訓練の成果を発揮する場であるとともに、「現場で求められる救命力とは何か」を見つめ直す貴重な機会でもあります。現場は常に変化し予測不能な状況に満ちています。市民の命を守るために、私たちは何をすべきかを常に問いかねなければなりません。

この研修会を通じて、自分たちの活動を振り返り、次の現場でどう活かすかを考えるきっかけとしてほしいと考えています。処置の手順だけでなく、隊員同士の連携、観察の一言、関係者への声掛けの一つひとつにも重要な意味があります。この場で得られた学びと気づきが、所属全体に広がり、今後の救急活動のさらなる向上につながることを期待しています。

実録!! 調査鑑識

焼けの見方～実況見分～ (木造2階建一般住宅編)



「調べて、広めて、市民を守る。」

Vol.38

次に2階リビングの焼けを見ていこう！



テレビ側の壁を見ると、炭化亀裂痕の状況から左側の焼けが強いのが分かるかな？
テレビも左側に傾いているね！テレビ等の物が燃えた時は、焼けが強い方に傾く性質があるから現場でもチェックしてね！

次に1階キッチンを見ていこう！



階段があった部分
1階キッチンの階段は焼失しているね！
階段付近は焼けが強くなるから、惑わされないように注意しよう！



部分的に焼け落ちている
天井を見ると、右側より左側の方が部分的に焼け落ちてるね！つまり、左側の方が焼けが強く、出火箇所に近いことが分かるね！

1階和室



焼け落ちている
椅子
ごみ箱
1階和室の天井は全て焼け落ちている！つまり、キッチンより和室の方が出火室の可能性が高い！

椅子を見ると手前が地色、奥は炭化。つまり奥が強く焼けているよね！
ちょうど奥側に銅粒が落ちていたよね？銅粒は電気配線の銅が溶けた物で、融点は1084.5°Cと高い温度(電気的要因若しくは火災熱)だと分かるね！他の2箇所にも電気配線はあったけど、電気痕や銅粒は出てこなかったんだ！電気痕や銅粒があるということは出火箇所に近いという目印になるんだ！ブレーカーが作動すると他の電気配線には電気が流れないからね！

奥の布団が焼失していないのが分かるかな？布団等燃えやすそうなものでも押入れの中等で積み重なると、表面のみ燃えて残つたりするんだ！

今回の出火室は1階和室、出火原因是、ごみ箱に捨てられたたばこでした！
ごみ箱があった場所は、ちょうど銅粒が出来たすぐ傍だね！
焼けの見方は分かったかな？先月号に載せた正解動画をもう一度貼っておくので、見逃した人は、ぜひ見てくださいね！

正解動画

焼けの見方～実況見分～
(木造2階建一般住宅編)

「調べて、広めて、市民を守る。」

前号の続きをでー！
正解動画は見てくれたかな？

田淵主任 (たぶっちゃん)

出火箇所は1階和室の右奥だったね！
今回は出火箇所を絞るのにどのように焼けを見ていけば良いか勉強していこう！

小松主任 (こまっちゃん)

2階寝室



出火後



焼損なし



1階和室



1階キッチン

2階リビング



階段

焼失

2階リビングの天井を見てみると、部屋の右奥の天井が焼失して焼けが強そうだね！この部分の焼けが強い理由は真下に階段があるからなんだ。

2階寝室を見ると、部屋の上部は焼けが見られるけど、棚やベッドの下部、床には焼けが見られないよね！焼けてる部分も他の部屋と比較して炭化亀裂痕や変形・焼失する箇所がないよね！
なので、焼けはそこまで強くないね！

木材は、地色→変色→焦げ→炭化→剥離→焼失の順に焼けが強くなるよ！

木材の焼けの例

焼失
剥離
炭化
焦げ
変色
地色

基本泳法



順下飛び込み



搬送法



水難救助操法



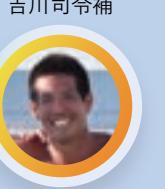
高度専門教育訓練センター
迫田司令補



高度専門教育訓練センター
福田士長



浪速消防署
吉川司令補



中央消防署
氏林司令補



平野消防署
横田司令補



強い日差しが照りつける
中、短い訓練期間ではありま
したが、講師の熱心な指導に
より、非常に充実した訓練と
なりました。

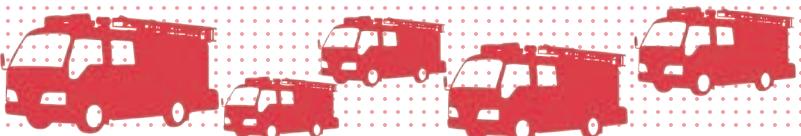
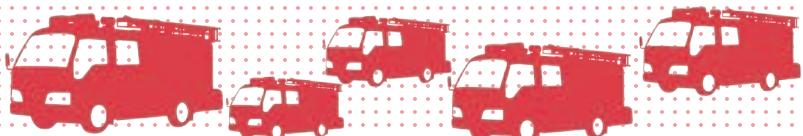
これから初任教育生の活
躍にご期待ください。来月号
は、校外研修及び視察研修の
様子をお届けします。

水難救助訓練



We ate Cookies!





交野市消防本部 令和7年度水難救助訓練を 実施しました

交野市消防本部では、令和7年6月27日と7月14日の2日間で管内の池を使用して水難事故を想定した救助訓練を実施しました。

近年、大雨等の自然災害による水害や水難事故が多く発生していることもあり、交野市消防本部でも管内の池や河川等を使用して、毎年救助隊により水難救助訓練を行っています。訓練は池に取り残された要救助者を安全かつ確実迅速に救出し、隊員の知識と技能の向上を図ることを目的として行いました。

着水状態での救命ボートや船外機の操作、要救助者を担架へ収容する等の手技は普段の署内の訓練では体験できないため、貴重な訓練となりました。また人事異動等で船外機を初めて操作する職員もいたため、非常に良い機会となりました。

今後も引き続き水難救助訓練に積極的に取り組み、救助隊の結束力及び隊員間の連携強化を高めてまいります。



豊中市消防局 WRS2025でドローン隊が 災害想定飛行を実施！

豊中市消防局の災害対応ドローン隊「KITE」が、WRS2025（ワールド・ロボット・サミット）で、消防ドローンを活用した災害想定飛行を披露します。

WRSとは、経済産業省が共催するロボット技術（ドローン含む）の社会実装と研究開発の加速を目的とした4年に1回の国際的イベントで、7月には大阪・関西万博会場でロボット技術競技が開催されています。

今回、ドローン隊の災害想定飛行は、福島ロボットテストフィールドで行われる、ドローン競技「環境過酷F-REIチャレンジ」の決勝となる10月12日に、「トンネル災害」を想定した飛行を行い、ドローン隊の活動を披露します。

世界中からの参加者や来場者、関係団体が見守る中での訓練展示となるため、日本の消防ドローンの活動を目にしていく良い機会になるとともに、当市ドローン隊にとっても貴重な経験の場となります。

今後も、災害現場での効果的な消防活動を研究し、災害対応力の向上に努めています。



松原市消防本部 高校生ファイアーボランティア 育成講習を実施

松原市消防本部では令和7年8月14日、15日の2日間、松原市内に在住または市内高校に在学中の高校生を対象に、高校生ファイアーボランティア育成講習を実施しました。

高校生を中心とする若者世代のボランティアは、災害復興に大きな力を発揮しています。この取り組みは、将来の防火防災の担い手となる高校生が自助と共助の精神を学び、自らが住んでいる地域や学校で災害時に活躍できる人材となることを目的に実施しています。

今回の講習では、「災害時対策プログラム」として、ボランティアについての講習・避難所運営訓練、「消防士体験プログラム」として、規律訓練・救命講習・救助訓練・消火器・屋内消火栓取扱訓練及び防火服を着用しての放水訓練を体験していただきました。2日間で計15名の高校生が参加し、炎天下の中、一生懸命取り組む姿が見られました。



忠岡町消防本部 事前ミーティングで査察の質を向上！

忠岡町消防本部では、防火対象物及び危険物施設等の査察を年間140件程度実施しています。

令和7年度から査察を実施する前に、当日の査察員と予防課員を含めた事前ミーティングを実施しています。査察を実施する対象物の現況や、過去の指導実績及び重点指導項目等を精査する事で、当日の査察員だけでなく予防課員全員で査察対象物を把握できます。それにより職員の査察知識が向上すると考えています。また、事前ミーティングの実施は、円滑で的確な指導を行うことができ、査察の質が向上するとともに違反対象物の是正に繋がることが期待できます。

更に、査察実施後においても、査察対象物に重大違反や不明点等があった場合には予防課員が主となり査察事後ミーティングを実施しており、情報共有を密にしながら改善策等を協議しています。忠岡町消防本部では、ミーティングにより査察の質を向上することで、1件でも多くの違反対象物を減らし、安心安全なまちづくりのため、これからも火災予防に努めています。

次世代の テクニカル レスキューカメラ

～ FIRSTLOOK360LR ～

「FIRSTLOOK360LR」は、画像探索機初の360度ライブストリーミング型救助用カメラで、令和7年2月から本部特別高度救助隊で運用しています。専用アプリを搭載した、大画面タブレット型ディスプレイと、カメラ本体を接続することで、要救助者と双方向の音声コミュニケーションを取ることができます。



諸元

視野角：360°
伸縮ポール長さ：
収納時 約81cm
展開時 約290cm
防水性能：水深3m
(環境適合型カバー使用時)
作動時間：約5時間

使用方法

使い方は
簡単!

- 1 カメラの電源を入れる
- 2 タブレットの電源を入れ、
アプリを起動
- 3 無線か有線で接続
- 4 各種操作を行う



- ① FL360カメラ
② 伸縮ポール
③ タブレット
④ 操作者用ヘッドセット
⑤ 有線接続コード
⑥ 環境適合型カバー
⑦ タブレット接続アダプター
⑧ CNT式リチウムイオンバッテリー
⑨ 電源部カバー用工具



360°カメラ (FL360カメラ)

一番の強みは360°カメラ。従来の画像探索機II型は、挿入した角度では見えない部分や、把持している手の向きによりカメラの向きが変わり、要救助者の位置や体位などを確実に把握することが難しい場面があった。しかし、360°カメラを搭載しているファーストルックは、死角がなく、今までのサーチングの不安要素を一掃してくれた。FL360カメラには、スピーカーとマイクが内蔵されており、要救助者の声や音を漏らさず拾うことができる。また、要救助者の声を要救助者に届けることもできることから、要救助者へ救助が来ていることを認識してもらうことができる。

大画面タブレット型 ディスプレイ

モニターに大画面タブレット型ディスプレイを使用、360°カメラで撮影した高解像度の映像から、より正確な情報を把握することができる。高性能な資器材にありがちな使用の際の複雑さではなく、タブレットの左上ボタンを押すと、各ボタンの操作内容が表示されるため、初めて使用する隊員でも安心して使用することができる。



優れた防水機能

通常時はIP67の防水性能が備わり、環境適合型カバーを使用時は水深3メートルまで防水保護可能。
※水中カメラとしては使用不可

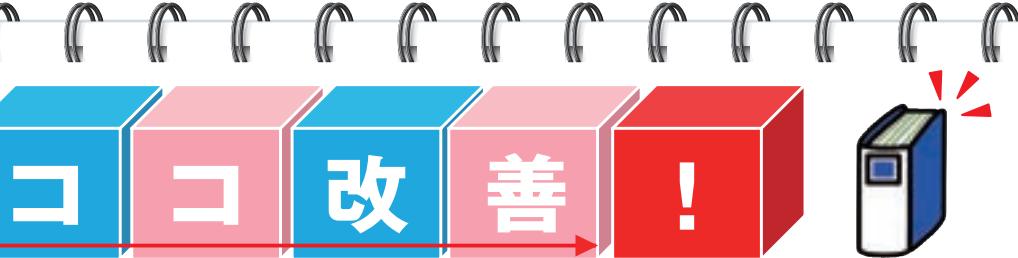


おわりに

テクニカルレスキューカメラ「FIRSTLOOK360LR」についてご紹介いたしましたが、いかがでしたでしょうか。

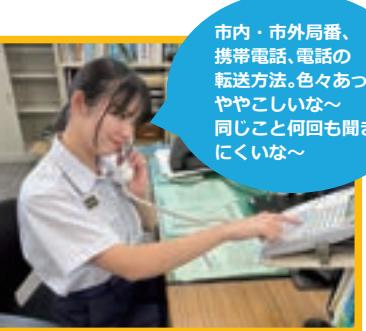
近年、災害が激甚化する中、消防職員には、ますます高度な知識・技術が求められ、資器材の性能は急速に向上しています。「FIRSTLOOK360LR」はその一つであり、過酷な災害現場に希望の光をもたらす素晴らしい資器材です。

本部特別高度救助隊は、人命救助の最後の砦として、高度な資器材を効果的に活用し、最高の救助活動を行い、助けを求めている方々の心にまで寄り添えるよう、日々研鑽を重ねてまいります。



— 西成消防署の事務改善事例をピックアップ —

消防学校での初任教育修了後から6ヶ月間、実務教育を受ける新任実務教育生へ向けたショート動画付き電話対応マニュアルを作成し、実務教育生及び担当者双方の業務効率化を実現した事例を紹介します。



マニュアル作成前

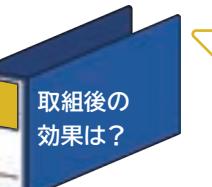


新任実務教育制度の見直しにより、消防学校の初任教育修了者を新任実務教育期間の約6ヶ月間で、予防担当と警防担当に3ヶ月ずつ配属することになりました。その中で、当署では毎期6名程度を受け入れており、電話対応が多い予防担当者の「実務教育生が入れ替わる度に同じことを繰り返し教えるのは業務の負担では？」、また、実務教育生の「上司に繰り返し質問して怒られないか？」という双方の不安を解消したいと考えました。

ココ改善!



予防担当に多い電話対応についてマニュアル動画を作成しました。異動してすぐの実務教育生の立場になって考え、まずは基本的な電話の受け方、転送の方法、市内・市外局番や携帯電話等の掛け方をまとめました。次に実際の電話対応の例では、最初に学んだ内容の理解をより深めるとともに、相手方に対する言葉遣い等も学べるよう作成しました。



実務教育生は、積極的に電話に出られるようになっただけでなく、検査の予約等、電話をかける際も不安なく掛けることができ、実務教育生の市民接遇の機会も増えるようになったことから、予防担当業務や電話対応への自信につながりました。



実務教育生からは、理解が深まるとともに業務の都合に合わせていつでも視聴できるので、業務への影響が少なく、主体的な学習につながったとの声がありました。また、予防担当者からは、繰り返しの説明が必要なくなり、業務の効率化につながったとの声があり、マニュアル動画作成の成果を感じました。

企画課 事務改善担当からのコメント

最近は動画による研修が増えており、自分の都合の良いタイミングで視聴できるメリットがあります。この事例は、動画時間が短いため隙間時間に学んで何度も復習できるのも良い点ですね。今後は警防関係(使用前点検など)の動画も作成される予定のことなので、若手職員のためにどんどん推進してほしいです😊